

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2026年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	応用栄養学Ⅱ						授業形態		講義	
科目コード	302700	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員			アクティブ ラーニング	○
担当教員名	出口 佳奈絵								ICT活 用	○
授業概要	本科目では、加齢に伴う人体の生理的变化と特徴を学び、栄養状態や心身機能に応じた栄養ケア・マネジメント実施のための理論を修得することを目的とする。特に、成人期、更年期、高齢期の内分泌系や代謝機能の変化に伴う栄養状態の推移に相応する栄養学の学修を深める。また、健康な人の栄養管理の指標となる食事摂取基準の基本的な考え方や活用方法を理解し、健康維持と疾病予防のための適切な栄養ケアを行える実践力を養うことを目指す。									
関連する科目	(履修前) 基礎栄養学、からだと栄養、からだと疾病、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学 (履修後) 応用栄養学Ⅲ、応用栄養学実習									
授業の進め方 と方法	教科書及びサポートシート、パワーポイントを用いた講義形式で進行する。 授業内の練習問題で理解度を確認する。 授業内で課題解決に向けたペアワーク、グループ協議、プレゼンテーションを行う。									
授業計画 【第1回】	成人期の生理的特徴 成人期の生理的・身体的な特徴について学ぶ。									
授業計画 【第2回】	成人期の栄養アセスメント 成人期における食生活、生活習慣の現状と栄養評価について学ぶ。									
授業計画 【第3回】	成人期の栄養ケア・マネジメント① 成人期における生活習慣と疾患との関連について学ぶ。									
授業計画 【第4回】	成人期の栄養ケア・マネジメント② 成人期における生活習慣病の予防と改善について学ぶ。									
授業計画 【第5回】	更年期の生理的特徴 更年期における生理的变化と栄養ケア・マネジメントを学ぶ。									
授業計画 【第6回】	成人期における食事摂取基準の策定根拠と基本的理解 食事摂取基準における基本的な考え方と活用法について学ぶ。									
授業計画 【第7回】	成人期における栄養ケア・マネジメントの検討 グループ協議による栄養ケア・マネジメントの検討を行う。									
授業計画 【第8回】	成人期における栄養ケア・マネジメントの報告 グループ協議による栄養ケア・マネジメントの成果発表を行う。									
授業計画 【第9回】	高齢期の生理的特徴 高齢期の生理的・身体的な特徴について学ぶ。									
授業計画 【第10回】	高齢期の栄養アセスメント 高齢期における食生活、生活習慣の現状と栄養評価について学ぶ。									

授業計画 【第11回】	高齢期の栄養ケア・マネジメント① 高齢期における低栄養、サルコペニア、フレイルについて学ぶ。
授業計画 【第12回】	高齢期の栄養ケア・マネジメント② 高齢期における摂食嚥下障害、脱水について学ぶ。
授業計画 【第13回】	高齢期の栄養ケア・マネジメント③ 高齢期におけるADL低下予防のための栄養支援について学ぶ。
授業計画 【第14回】	高齢期における食事摂取基準の策定根拠と基本的理解 食事摂取基準における基本的な考え方と活用法について学ぶ。
授業計画 【第15回】	応用栄養学Ⅱのまとめ ライフステージ各期のまとめと事例検討を学ぶ。
授業の到達目標	①対象者の栄養状態を評価する基本的な考え方を理解できる。【知識・理解の育成】 ②対象者に応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な手法を理解できる。【問題解決力・論理的思考力の育成】 ③成人期と高齢期の生理的特徴と栄養ケア・マネジメントを理解し、説明することができる。【多様性理解の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)
授業時間外学習【予習】	講義前日、次回範囲の内容について教科書を熟読し、学習しておくこと。(90分)
授業時間外学習【復習】	管理栄養士国家試験の過去問題を解く習慣をつけること。(90分) また、普段から食と健康に関する情報に興味・関心を高めておくこと。
課題に対する フィードバック	・ 定期試験は採点結果を開示する。 ・ グループ協議に対する助言を行う。
評価方法・基準	①定期試験(60%) ②小テスト(20%) ③授業内協働活動に関する提出物(10%) ④授業内思考過程に関する提出物(10%)
テキスト	栄養科学シリーズNEXT「応用栄養学 第7版」(講談社)木戸康博ほか/編(2025)
参考書	・「日本人のための食事摂取基準(2025年版)」 ・健康・栄養科学シリーズ「基礎栄養学 改定第7版」(南江堂)合田敏尚ら編(2026)
備考	毎回の予習と復習は大切である。なお、授業の振り返りを記録する自己評価シートは、出席管理に使用する。 学習内容を定着させ、3年次の「応用栄養学実習」に備えること。